
【年次報告】

新しい事務局になって思うこと

得能 想平

今年も DG-Lab は隔月年六回の定例会と二つのイベントを行い、四年目の活動を終わることができました。昨年までの山森、小林、小倉体制から引き継ぎ、佐原、内藤、得能体制の事務局では一年目になります。地道な読書会と自由な研究発表というこれまであり方を維持しながら、新しい風を吹き込んでいければと息巻いておりましたが、組織の運営に四苦八苦するうちに通り過ぎていった一年だったという実感です。

2018年は『差異と反復』出版50年ということもあり、『差異と反復』および、それに関わる一九六〇年代の文献を読書会で扱いました。どの読書会でも一筋縄ではいかない箇所を扱いましたが、担当者の方々にそれぞれの観点から肉付けを行っていただけただことで、大変実りあるものになったと記憶しています。タイムキープを意識し、休憩時間をしっかりとるなどの形式面の改善もよい方向に作用したように思います。

研究発表も非常に充実した内容でした。どちらかといえば研究の萌芽的なアイデアを共有し、みんなで腰を据えて議論をするという形が多かったように思います。熱がこもった議論になることもありましたが、互いの考えを尊重し、それぞれの問題を育てる場になってくれたのではないかと思います。また在野の参加者の方々にご発表頂く機会を持たせたことも非常によかったと思っています。

今期 DG-Lab は大きなイベントを二つ行うことができました。一つは『差異と反復』出版50年を記念した『『差異と反復』の過去・現在・未来』です。翻訳者の財津理先生をお呼びいたしまして、財津先生の『差異と反復』に対するお考えや、ドゥルーズ自身にお会いしたときの印象などをお聞きすることができました。

遠方からいらした方々も含め多くの参加者にも恵まれ、盛況を博しました。とりわけ財津先生を囲んでの懇親会は非常に印象深いものでした。登壇していただいた財津先生、共催いただいた山森さん、そして参加していただいた皆さまに改めて感謝したいと思います。

年が明けてからになりますが、もう一つ、『カオスに抗する闘い』・『眼がスクリーンになるとき』合評会を行いました。2018年は、前事務局を担当されていた小倉拓也さんとラボの参加者の福尾匠さんがそれぞれご著書を出版された年でありました。このことを受けて DG-Lab は立命館大学の千葉雅也先生、早稲田大学の堀千晶先生を特定質問者としてお呼びし、合評会を企画いたしました。厳しい意見の対立などもありましたが、ドゥルーズ研究に内在するさまざまな論点を多くの方々と共有できたことはよかったですと思います。こちらに関しても、登壇していただいた皆さま、共催いただいた大阪大学の檜垣立哉先生、会の開催にご尽力いただいた立命館大学の小泉義之先生、そして参加していただいた皆さまに改めて感謝したいと思います。

2019年は『意味の論理学』出版50年ということで、今度は『意味の論理学』に関するイベントを計画しております。ご期待いただければと思います。

今後の課題としましては、内容をオープンにし、より発信力を高めることで、ドゥルーズ=ガタリの哲学に興味がある方々により気軽に参加していただける会にできればと考えています。「マイナー」な集まりになること自体はネガティブなことではないですが、社会に対して「シーニュ」を発していくことは同時に会を悪くない方向に導いてくれるのではないかと思います。

第十九回

【日時】2018年1月20日（土）14時～19時

【場所】長岡京市生涯学習センター、6階・和室 バンピオ1番館内

【読書会】『ニーチェと哲学』「結論」および「第三章批判」（担当：平田公威）

【研究発表】シモカワ「ジル・ドゥルーズ/フェリックス・ガタリ 宇野邦一訳『カフカ マイナー文学のために』より。」

第二十回

【日時】2018年3月17日(土) 14時～19時

【場所】長岡京市生涯学習センター、4階・学習室2 バンビオ1番館内

【読書会】『ニーチェと哲学』第一章・第二章(担当:小林卓也)

【ディスカッション】『アベセデール』をめぐって

第二十一回

【日時】2018年5月26日(土) 14時～19時

【場所】長岡京市生涯学習センター、4階・学習室3 バンビオ1番館内

【読書会】『ニーチェと哲学』第四章(担当:田村)・第五章(担当:伊藤)

【ディスカッション】『アベセデール』をめぐって

第二十二回

【日時】2018年7月28日(土) 14時～19時

【場所】長岡京市生涯学習センター、6階・会議室3 バンビオ1番館内

【読書会】『差異と反復』上巻:第二章「それ自身へ向かう反復」pp.197-214(担当:得能想平)

【研究発表】佐々木晃也「スピノザ・ドゥルーズの情動論」

第二十三回

【日時】2018年9月15日(土) 14時～19時

【場所】長岡京市中央生涯学習センター 4階・学習室2 バンビオ1番館内

【読書会】『スピノザと表現の問題』第三部第12章「様態の本質、無限から有限への移行」～第14章「身体は何をなしているのか」、pp. 194-240(担当:立花達也)

【研究発表】

山森裕毅「スキゾ分析の初期設定」

小林卓也「『差異と反復』における問いの存在論(仮)」

小倉拓也「現行犯での伝説化——映画の時間的体制における物語と行為——」

第二十四回

【日時】2018年11月10日(土) 14時～19時

【場所】長岡京市生涯学習センター(バンビオ1番館内)、6階・配膳試食室

【読書会】「ドラマ化の方法」(『ドゥルーズ・コレクション I』pp.29-53ほか)(担当:得能想平)

【研究発表】佐原浩一郎「『巽』における充足理由と外皮について」

イベント

『差異と反復』出版 50 周年記念特別企画『『差異と反復』の過去・現在・未来』

DG-Lab Presents
『差異と反復』出版 50 周年記念特別企画

『差異と反復』の
講演：財津理 研究発表：得能想平
「『差異と反復』の独自性とそれ以前の諸作品——精神分析の視点から——」 「ドゥルーズの差異の概念について」
(大阪大学)

過去・現在・未来

2018年12月8日(土) 13:30-17:10
(13:00 開場)

長岡京市中央生涯学習センター 3階 特別展示室
(京都府長岡京市神足2丁目3番1号 バンビオ1番館内)

入場無料
主催：DG-Lab (ドゥルーズ・ガタリ・ラボラトリー)
定員：50名
共催：若手研究「フェリックス・ガタリの「スキゾ分析」の理論、およびその臨床実践に関する研究」(研究代表者：山森裕毅)

お問い合わせ：DG-Lab事務局 dglab.chaosmos@gmail.com

日時：2018年12月8日(土) 13:30-17:10 (13:00 開場)

場所：長岡京市中央生涯学習センター 3階 特別展示室
(京都府長岡京市神足2丁目3番1号バンビオ1番館内)

講演：財津理『『差異と反復』の独自性とそれ以前の諸作品——精神分析の視点から——』

研究発表：得能想平 (大阪大学)「ドゥルーズの差異の概念について」

主催：DG-Lab (ドゥルーズ・ガタリ・ラボラトリー)

共催：若手研究「フェリックス・ガタリの「スキゾ分析」の理論、およびその臨床実践に関する研究」(研究代表者：山森裕毅)

『カオスに抗する闘い』・『眼がスクリーンになるとき』合評会



Gilles Deleuze

DG-Lab Presents

『カオスに抗する闘い』
『眼がスクリーンになるとき』合評会

2019年2月9日(土) 13:30~17:45

場所：クロスパル高槻・5階視聴覚室 (大阪府高槻市紺屋町1-2)
定員：100名
入場料：なし
お問い合わせ：DG-Lab事務局 dg@lab.chaosmos@gmail.com
主催：大阪大学人間科学研究科共生学系共生の人間学分野檜垣立哉研究室
DG-Lab (ドゥルーズ・ガタリ・ラボラトリ)

合評会1
『カオスに抗する闘い』ドゥルーズ・精神分析・現象学』人文書院 (2018)
小倉拓也 (大阪大学) 著、人文書院 (2018)
特定質問者：千葉雅也 (立命館大学)

合評会2
『眼がスクリーンになるとき』ゼロから読むドゥルーズ『シネマ』フィルムアート社 (2018)
福尾匠 (横浜国立大学) 著、フィルムアート社 (2018)
特定質問者：堀千晶 (早稲田大学)

日時：2019年2月9日(土) 13:30-17:45

場所：クロスパル高槻・5階視聴覚室 (大阪府高槻市紺屋町1-2)

合評会1：『カオスに抗する闘い』ドゥルーズ・精神分析・現象学』人文書院 (2018)

著者：小倉拓也 (大阪大学)

特定質問者：千葉雅也 (立命館大学)

合評会2：『眼がスクリーンになるとき』ゼロから読むドゥルーズ『シネマ』フィルムアート社 (2018)

著者：福尾匠 (横浜国立大学)

特定質問者：堀千晶 (早稲田大学)

主催：大阪大学人間科学研究科共生学系共生の人間学分野檜垣立哉研究室、DG-Lab (ドゥルーズ・ガタリ・ラボラトリ)